

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ意見まとめ

地区	塩津地区	回数	第4回
日時	平成29年12月16日(土)	午後1時30分～午後4時30分まで	
会場	塩津公民館 講義室	参加者数	21名

1. 評価項目に関する意見

①地区の活性化(まちづくり)

少子化でまちの人が少ない状況やたとえ多くの人が集まりたくても場所がないと難しいことを考えると、施設を複合化することで人が集まる可能性が高まり、多くの人が集まる場ができ、それが活性化につながるという評価項目は理解できる。

- ・ 活性化を人の集まる可能性で評価するのは良いと思う。
- ・ 多くの人が集まろうとしても場所がないとできないこともあるので、場所があるかどうかは活性化の評価項目になるのではないかな。
- ・ これまでは祭りなどを通じて地区内でのつながりがあったが、少子化で祭りが成り立たず、それができなくなってきている。まちに人がいない状況なので、施設を複合化することで集まる人の数を増やす＝つながりを生むというのは理解できる。

集まる場所があっても人が来るとは限らないので、ソフトが大事ではないか。塩津公民館と集会所との連携や使い分けを考え、コンテンツの充実も検討していくのが良い。

- ・ 集まる場所があっても人が来るとは限らない。行ってみたいと思える場所でないと思えないと思うので、やり方次第、ソフトが大事ではないか。
- ・ 今後の運用にあたっては集会所との連携も考え、コンテンツの充実も検討していくのが良い。地区の活性化を目指すのであれば、集会所と塩津公民館の使い分けも検討していくのが良い。(例：行事をするのは塩津公民館、サークルや地区の人が集まる小規模なスクールは集会所)

地区の中心に位置していると人が集まりやすいと思うので、それも評価項目にならないか。

- ・ 人の集まりやすい場所というと地区の中心にあるのかということも評価項目にならないか。

施設がどこにあるのかは、今後自動運転システムなどの交通システムがもっと発達すればさほど問題にならないのではないか。

- ・ 地区の中心にあるかどうかは、今後自動運転システムなどの交通システムがもっと発達すればさほど問題にならないのではないか。

公民館を利用することが少ないので、この視点の評価には正直言ってあまり関心がない。

- ・ 公民館を実際に利用することが少ないので、正直この視点の評価については、あまり関心がない。

地域の体育祭の時にグラウンドが利用できれば、公民館が小学校、中学校どちらと統合されても構わない。

- ・ 地域の体育祭の時にグラウンドが利用できれば、公民館が小学校、中学校どちらと統合されても構わない。

<ウ>

駐車場のスペースの確保ができるか否かというのは明確に判断できることなので、この項目の評価方法や結果に疑問はない。塩津公民館は地区全域に関わる会合などで使用されることが多く、車で集まることが多いので、駐車場が十分確保できるかは重要だ。

- ・ 駐車場のスペース確保できるか否かというのは物理的な問題なので、この項目の評価の仕方に特に疑問はない。
- ・ <サ>にも共通する内容だが、塩津公民館は塩津地区の地区全域に関わる取り組み（例：PTAや自治会長の集まり）などで使用されることが多い。そのため車で集合することが多いので、「駐車場が十分に確保できているか」が重要になってくる。
- ・ 集会所は徒歩で通うが塩津公民館は上記目的で利用されることが多く、近隣の人が日常的に利用するような施設ではない。

駐車場スペースは建物ができた後にいくらでも確保は可能ではないか。

- ・ 駐車場スペースは、建物ができた後でもいくらでも確保は可能ではないか。

駐車場確保のために借地を使ったり、屋上を活用するという考え方はないのだろうか。

- ・ 駐車場を考える上で借地は使わないのか。
→ 借地は返すという条件で評価している。（市から説明）
- ・ 駐車場を施設の屋上に作るという考えはないのか。
→ 複合化すれば高層化する方向なので、現実的ではないと考えている。（市から説明）

D'案だと駐車場は確保できるが、公民館へのアクセスが悪くなる。

- ・ D'案だと、公民館が、駐車場は確保できるがアクセスが悪くなる。

D案でグラウンドを小さくして駐車場にしてはどうか。

- ・ D案でグラウンドを小さくして駐車場にしてはどうか。

駐車場を確保するためにグラウンドを小さくしてしまうと、地域の活動で使用する際に困る。

- ・ グラウンドを小さくすると地域の活動に困る。

②子育てしやすい環境づくり

現状でも小学校と公民館の距離は近いが、複合化することで何が変わるのか。

- ・ 現状でも小学校と公民館の距離は近い。複合化して何が変わるのか。
→ 複合化すると共有スペースを相互利用できる。(市から説明)

<キ>

小、中学校が一緒になると、受験期の中学3年生は小さい子どもの騒ぐ声などがうるさく感じるかもしれない。十分な授業や部活ができるかについてはもっと評価するべきだ。

- ・ 十分な授業や部活ができるかについてもっと評価するべき。
- ・ 小、中学校が一緒になる場合、とくに中学3年生は受験前にピリピリしているので、小さい子どもの騒ぐ声などがうるさくないか。

グラウンドや体育館の利用時間帯を小学校と中学校で分けるなど、運用のやり方で問題解決できることだと思うので、利用時間が重なるかどうかはさほど重要な評価項目とは思えない。

- ・ グラウンドや体育館の利用が重ならない様に、小学校と中学校で時間帯を分けるなどの工夫をすれば問題は生まれないのではないか。運用で対応できるのでないか。利用時間が重なるかどうかはさほど重要な評価項目とは思えない。

時間帯で分けられると活動に制限が生まれてしまい、モチベーションの低下にもつながりかねない。十分な活動ができる様にと考えると、広いグラウンドや体育館が必要になり、コストもかかるだろう。

- ・ 時間帯で分けられると活動に制限が生まれてしまい、モチベーションの低下にもつながるかもしれない。
- ・ 小学校も中学校も十分な活動ができる様にと考えると、広いグラウンドや体育館が必要になる。当然コストもかかるだろう。

<コ>

小学校と公民館が複合化することで、遊びのスペースが増える可能性が生まれたり、放課後も小学校の図書室などを利用できるようになるのであれば居場所づくりにつながると思う。

- ・ 小学校と公民館の複合化が子どもの居場所や遊び場の創出につながるというのは、複合化すれば遊びのスペースが増える可能性があると思うので良いと思う。

- ・ 小学校と公民館が複合化することで、放課後も児童が小学校の図書室などを利用できるようにするのであれば居場所づくりにつながると思う。

小学校と公民館の複合化が子どもの居場所や遊び場の創出につながる理由が良くわからない。公民館が子どもの遊び場になるとは思えないし、放課後に小学校の施設が利用できるようになったとしても、大人の目の届かない所で遊ぶのは危険だと思う。

- ・ 小学校と公民館の複合化が子どもの居場所や遊び場の創出につながる理由が良くわからない。小学生が公民館を利用することは現状ではほとんどない。
- ・ 複合化したとして、子供にとって公民館が遊び場になるだろうか。
→ あくまで可能性だが、運用次第では可能だと考えている。(市から説明)
- ・ 小学校と公民館が複合化されて、小学校施設が利用できるようになったとしても、児童が大人の目の届かない所で教室を自由に使えるようになるのは危険ではないか。

子どもの居場所や遊び場の創出という意味では、児童クラブが充実すれば良いのではない。ただ、児童クラブの充実は親にはありがたいが、そこに行きたくない子にとっては必ずしも良いことではない。

- ・ 子どもの居場所や遊び場の創出という意味では、児童クラブが充実すれば良いのではない。
- ・ 児童クラブに行きたくない子もいると聞くので、児童クラブが充実すればそこに行かされる子が増えるということだろう。親にとっては良いのかもしれないが、子供にとっては必ずしも良いことではない。

<追加項目>

<ケ>では小学校と中学校の建物が近接することがメリットとして評価されているが、小さい子ども達の声が中学生の学習環境に支障をきたすといったデメリットも懸念される。<ケ>をソフト面から評価するために、「運営・使用上の懸念が解消されるか」という項目を追加してはどうか。

- ・ 「小、中の連携ができる」とあり、小、中学校の建物が近接することのメリットで評価されているが、小さい子ども達の声が中学3年生の勉強に支障をきたすというようなデメリットも懸念される。このため、<ケ>をハードとソフトに分けて、「運営・使用上で懸念が解消されるかどうか」という評価項目を追加してはどうか。

③多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）の利用できる場の創出

多様な人々の利用、交流が生まれるかどうかは、施設の組み合わせにかかわらず中身の問題、使い方次第ではないか。

- ・ 本当に大事なものは中身だと思う。
- ・ 多様な人々の利用、交流が生まれるかどうかは、施設の組み合わせにかかわらず使い方

次第ではないか。例えば塩津北保育園では地域の人々が芝生を植えたりした。

公民館のことについては、利用者の意見を聞く必要がある。

- ・ 公民館の利用者がどう思うかを聴いた方が良い。

評価項目はこれで良いのではないか。

- ・ 評価項目はこれで良いのではないか。

<サ>

距離の問題は、コミュニティバスを通すなどソフトで解決できるし、将来的に交通システムがもっと発展すればさほど大きな問題にならないと思う。

- ・ 多くの人の居住地から近い位置にあることは、交通システムが発展すれば将来的にはさほど重要にならないと思う。
- ・ 距離の問題はコミュニティバスを通すなど、ソフトで解決できるのではないか。

1 km 圏、2 km 圏というのはどういう基準で決めたのか。施設が徒歩圏にあると行きやすいと考えるとしたら距離が長すぎる。

- ・ 1 km 圏、2 km 圏というのは、どういう基準で決めたのか。徒歩圏にしては広すぎる。例えば、中学校で決められている自転車通学可能な距離（自転車通学は不可で徒歩で通学する範囲）が徒歩圏の1つの目安になるのではないか。

高齢者や障がい者は公民館には車で来よう。多様な人に利用されるようになるためには、駐車場が整備されることの方が重要だ。

- ・ 高齢者や障がい者は、歩かずに車で来るとはではないか。だとしたら、駐車場が確保できるかという方が利用しやすさにつながる。
- ・ 公民館が多様な人に利用されるようになるためには、駐車場が整備されることの方が大切だ。

塩津公民館は近隣住民が利用する集会所とは機能が異なるので、周辺人口の多少は評価としてふさわしくないと思う。

- ・ 塩津公民館は近隣住民が利用する集会所とは機能が異なるので、周辺人口の多少は評価としてはふさわしくない。

<ス>

公民館を小学生が利用することはほとんどないので、小学校と隣接しているかどうかを評価してもあまり意味がないように思う。

- ・ 公民館を小学生が利用することはほとんどないので、小学校と隣接しているかどうか

を評価しても、あまり意味がないように思う。

<シ><ス><セ>

いずれの評価項目でも交流の場ができるかを見ているが、場ができることは人が集まるための大きな要素だと思うのでこの評価方法で良いと思う。

- ・ いずれの評価項目でも交流の場ができるかを見ているが、場ができることは人が集まるための大きな要素だと思うのでこの評価で良いと思う。

④安全の確保

施設がどうあれ、安全性の確保は使う人のモラルにかかってくる。

- ・ 施設がどうあれ、使う人のモラルにかかってくる。

<タ>

全ての案が同じ評価になっているが、施設が複合化して人の目が多くなる、大人の目が多くなる方が安全性が高まるのではないか。

- ・ 全ての案が同じ評価になっているが、施設が複合化して人の目が多くなる、大人の目が多くなる方が安全性が高まるのではないか。

人が多く出入りすると、知らない人も入ってくる可能性があるので、施設の複合化による安全性は一長一短ではないか。

- ・ 人が多く出入りすることになると、知らない人も入ってくる可能性があるので、施設の複合化は一長一短ではないか。

<チ>

交通量の多い道路に接しているか否かで評価しているが、車より自転車の方が危ない点もあり、自動ブレーキシステムなど車の性能が上がっていることを考えても、この項目が重要なのかに疑問がある。

- ・ 交通量の多い道路に接しているか否かで評価しているが、自動ブレーキシステムなど車の性能が上がっているので、これが将来的にどこまで重要かには疑問がある。
- ・ 車より自転車の方が危ないのではないか。

保育園と学校を同一敷地内にとすると、通園、通学時などに歩行者と登園の自動車が混在して危険になるため、A、B、D、D' 案の評価は「○」ではなく「△」になるのではないか。

- ・ 保育園と学校を同一敷地内にとすると、通園、通学時などに歩行者と登園の自動車が混在して危険になるため、A、B、D、D' 案の評価は「○」ではなく「△」になるのではないか。「項目ごとの評価の解説」の7ページを修正すべきではないか。

塩津北保育園より塩津小学校の方が道路事情が良く、安全性は低下しないのでD案の「○」の評価は妥当だと思う。

- ・ D案の○の評価は妥当。塩津北保育園よりは塩津小学校の方が道路事情がいいので、安全性は低下しない。

E案とB'案の評価が「△」になっているが、単純に利用者人数だけで評価しているように思えるので、辛口の評価ではないか。

- ・ E案、B'案の評価は△だが、単純に利用者の人数だけで評価しているように見え、辛口の評価ではないか。

⑤災害時の対応

<ツ>

なぜ評価結果が全て現状と変わらない「○」なのか。施設を建て替えるのだから「◎」になる様にしてほしいが、そういう案は考えられないということか。体育館だけでなく小、中学校の教室を避難所として使うなど手立てはいろいろ考えられるので、スペースを増やす検討をしてほしい。

- ・ なぜ評価結果が全て「○」なのか。
→ 学校の体育館の数が減るので災害対応がしにくくなるということはない。他に土地や建物をもっている方を探すなどして災害対応ができる状態を必ず作るためである。(市から回答)
- ・ いずれの案でも避難所の収容人数は◎にならないのか。施設を建て替えるのだから◎になる様な案にしてほしいが、そういう案はないということか。
- ・ 他の地域の例にもあるが、体育館だけでなく小、中学校の教室を使うことも考えられる。体育館の様な広いスペースに集まるよりも区切られている方が快適だし、避難するスペースを増やす手立てはいろいろあるのではないか。

小、中学校が統合される場合、双方の生徒全員が合同で使えるくらいの大きさの体育館にしないと不自由が生じるし、避難所としても十分な広さとは言えないのではないか。

- ・ 小、中学校が統合される場合、双方の生徒全員が合同で使えるくらいの大きさの体育館にしないと不自由が生じるのではないか。避難所としても十分な広さと言えないのではないか。
- ・ 避難所収容人数の算定で、「避難所＝体育館の大きさ」で算定されている。小、中学校が統合されてもされなくても数字に違いがないのはなぜか。統合されても体育館が大きくならないということなのか。
→ その想定で考えている。(市)。

津波対策としては、施設の場所が高台にあるか、移動が難しい人も発災後すぐに高台にある避難所に移動できるかも重要なので、その視点からもチェックする必要がある。

- ・ 津波対策としては、施設の場所が高台にあるかも重要だ。それとともに、移動が難しい人も発災後すぐに高台にある避難所に移動できるかという視点からもチェックする必要がある。

<テ>

発災直後に一時的に行く避難場所は分散していた方が良いが、避難所は分散していても良いのではないか。

- ・ 発災直後に一時的に行く避難場所は分散していた方が良いが、避難所は分散していても良いのではないか。

<ト>

ハザードマップでは現在の公民館周辺は浸水地区ではないが、過去の災害時のことを考えると、本当に浸水しないのか、安全面の確保は大丈夫なのかという疑問が残る。

- ・ ハザードマップでは現在の公民館周辺は浸水地区ではないとなっているが、伊勢湾台風でもかなりの浸水があった。東日本大震災などの大災害があった時に、本当にこの周辺が浸水しないと言えるのか。安全面の確保は大丈夫なのか。

⑥アクセス性への配慮

小、中学校で広い駐車場スペースが必要になるのは、年に数回のイベント時だけのことなので、他の施設の駐車場を使うなどの運用面での対策で解決できると思う。常時広い駐車場を確保する必要はない。

- ・ 小、中学校の駐車場の確保についての項目がないがそれで良いのかという議論があるが、運動会など年に数回だけのことなので、例えばその日はボートレース場の駐車場も利用してよい、他の公共施設の駐車場を利用してよい、などの運用面の対策で解決できると思う。そのために駐車場を常時確保する必要はない。

<ナ>

「距離の公平性」という言葉はあいまいだし、対象者ごとのアクセスについては他の項目で評価されているので、この評価項目はなくても良いと思う。

- ・ 「距離の公平性」という言葉はあいまいで、評価項目として不要ではないか。対象者毎のアクセスについては次項以下で評価されているから十分だろう。

<ニ>

小学校が中学校の場所になって徒歩で通いにくくなるA、C、E案の評価は△ではなく×

をつけたいぐらいだ。重要な項目なのでもっと重み付けをすべきではないか。

- ・ 小学校が中学校の場所になるA、C、E案の評価は△ではなく×をつけたいぐらいだ。徒歩で通いにくくなる。
- ・ 小学1年生の通学距離が長くなる案は「△」となっているが、もっと重み付けをすべきではないか。

小学校跡地は利用価値が高く高額で売却できるという理由で小学校が中学校に複合され、通学距離が長くなるのは納得しがたい。

- ・ 小学校跡地は利用価値が高く高額で売却できるという理由で小学校が中学校に複合され、通学距離が長くなるのは納得しがたい。

小学校が遠くなる場合は、通学バスなどによるアクセスの確保が付帯条件としてははずせない。

- ・ 小学校が遠くなる場合、通学バスなどの工夫があれば良い。これは付帯条件としてははずせない。

<ヌ>

保育園の駐車場は現状でも足りていない状況なので、それが統合しても変わらないのであれば評価は△ではなく、現状維持の○で良いのではないか。

- ・ 駐車場は保育園では既に足りていない。統合しても変わらないだろうと思われ、その意味では評価は△ではなく、現状維持の○でよいのではないか。

<ネ>

保育園に通うのに徒歩以外の足がない人がいるのか疑問だ。もしいるとしたらアクセスについて何らかの援助をすれば解決できると思うので、評価に入れるべき項目とは思えない。

- ・ 徒歩で保育園に通っている人はいるのだろうか。保育園に送っていった後に仕事に行くだろうから、徒歩以外の足があるということではないのか。
- ・ 家が近い人がたまたま徒歩で行っているだけで、遠くなれば別に手段はあるのではないか。
- ・ 徒歩で通っている人がいるとは思えないので、評価として入れるべき項目とは思えない。もし徒歩の人がいるとしたら、アクセスについて何らかの援助をすれば解決できるだろう。

<ハ>

公民館の利便性の高さを「駅から近い所にある」ことで評価しているが、地区内の人を対

象と考えるならば一部を除けばあまり関係がないし、アクセス性の向上はコミュニティバスなどのソフト策で解決できることだと思う。

- ・ 公民館の利便性の高さを「駅から近い所にある」ことで評価しているが、それがあてはまるのは鹿島地区の人だけではないか。
- ・ 他の地域の人呼び込むというなら駅からの近さも重要だろうが、地区内の人を対象にするならあまり関係がないと思う。
- ・ 公民館へのアクセス性の向上は、コミュニティバスなどのソフト策で解決できることではないか。

<項目追加>

「交通弱者のために新たな交通手段を用意する必要があるか」という評価項目を追加してはどうか。

- ・ 「交通弱者のために新たな交通手段を用意する必要があるか」という評価項目を追加してはどうか。

⑦将来負担（コスト）の縮減

財政のことを考えれば、コストを重視するのは仕方がないことだと思う。無理をして、他にしわ寄せがきてしまっても困る。

- ・ 財政のことを考えれば、コストを重視するのは仕方がないことだと思う。無理をして、他にしわ寄せがきてしまっても困る。

税金を多く払う必要が出て構わないので、コストがかかってもこれだけの施設がほしいという意見もありうる。コストばかりを重視して評価しないでほしい。

- ・ 税金を多く払う必要が出て構わないので、コストがかかってもこれだけの施設がほしいという意見もありうる。コストばかりを重視して評価しないでほしい。

塩津地区でのコストの下げ幅が小さくても、市全体で大きくなれば良いと思うので、コスト削減は市全体で考えてほしい。

- ・ 塩津地区でのコストの下げ幅が小さくても、市全体でコスト削減金額が高くなれば良いと思う。市全体で考えてほしい。

75：25 という配分は適当に決めたことだと思うので、利便性の点数とコストの点数を足す意味がわからない。

- ・ 75：25 という配分は適当に決めたことだと思うので、利便性の点数とコストの点数を足す意味がわからない。（合計点を出さなくても、それぞれの評価で案を比較すればいいことではないかという趣旨）

施設を複合化することでコストが下がることがわかったが、大きなコスト要因である人件費も削減できると思うので、それを反映したら評価結果が変わってくるのではないか。

- ・ 施設を集約するとコストは下がるということがわかった。
- ・ 施設が複合化することで、そこに充てられるべき人件費も削減できるのではないか。人件費も大きなコスト要因だと思うので、そこも反映すると結果は変わってくるのではないか。

各案の課題に対応した場合のコストも計上すべきではないか。

- ・ 案の懸念事項への対応コストも計上すべきではないか。

金額が大きすぎることもあり、コストの数字を出されてもピンとこないのので、評価ができない。

- ・ コストの数字は金額が大きすぎてピンと来ない。
- ・ 数字を出されてもいいのかどうか評価できない。

2. 評価方法

視点ごとに評価項目の数に差があり、結果的に重みづけがなされた評価になっている。果たしてこれで良いのか。

- ・ 視点ごとに評価項目の数に差があり、例えば④や⑤は3項目しかないが、②は7項目もあるので、結果的に重みづけがなされた評価になっているが果たしてこれで良いのか。

「◎」「○」「△」の3段階評価になっているが、「○」は、“一長一短”を丸めて評価して具体的な内容が分からないので、評価の判断がしにくい。

- ・ 項目ごとに「◎」「○」「△」の3段階評価で評価するとあるが、「○」は、“一長一短”を丸めて評価するため、具体的な内容が分からず評価しにくい。

各案で課題となる事項に対しての対策案を出してほしい。対策案によって評価結果が変わる。

- ・ 懸念事項に対して対応策を出してほしい。対応策によって評価が変わる。

3. 案作成の考え方や各案に対する意見

災害時の安全を考えて多少不便でも高台に公共施設を設置することは大切だが、一方で平常時の日常生活の利便性も重要だ。災害への備えと日常の利便性のバランスが取れた再配置プランが考えられると良い。

- ・ 災害時への備えと日常の利便性についてはバランスをとっていかないといけない。この地区は海も近いので、災害に備えて多少不便でも高台に公共施設を設置し、いざというときの安全と避難場所を確保することが大切だろう。一方で、そのために日常生活に

不便が生じるのは得策とも言えず、万が一に備えながらも日常の利便性をも考えた再配置プランを考えていければ良い。

子どもの教育のことを考えると他地区の生徒と交流する方が良い面もある。中学校の配置を考える際には、地区の境を越えて市全体で考えるべきではないか。

- ・ 小学校と同じ地区の中学校に行くことが必ずしも教育的にいいとは限らず、他の地区の生徒と交流する方がかえってよいと思う。中学校の配置を考える際には、地区の境を越えて、市全体で考えるべきではないか。

小学校が中学校敷地に移設されると、鹿島や拾石などの子ども達は通学が困難になり、隣の地区の小学校の方が通いやすくなる。将来的に学区の境界線が変更され、地域分裂の危機が起こるのではないか。

- ・ 小学校が中学校の敷地に移設されると、鹿島や拾石などの特定の地区の方々には通学が困難になるため、隣の地区の小学校に通った方が良くなる。学区の境界線は住民から要望があれば変更が可能のため、将来的に学区の境界線を変更するような地域分裂の危機とならないか。現時点では、隣の地区の小学校に通う世帯でも祭りは一緒にやるなど塩津地区としての一体感はある。

利用者が少ない公立保育園の土地や施設を民間に売却することも検討してほしい。サービスや保育料が変わらないのであれば民間でも構わない。その方が行政コストが下げられて良いと思う。

- ・ 公立保育園をなくし、土地、施設を民間に売却することを案として出してほしい。公立保育園は利用者が少ないので、民間になってもサービスや料金がかわらないのであれば民間でよい。行政コストが下げられる。

いろいろな選択肢が必要だと思うので公立保育園が塩津地区にある方が良い。延長保育を実施するなど、サービスを充実させて利用者を増やすべきだ。

- ・ 公立保育園のサービスを充実させて利用者を増やすべき。延長保育をすればみんな通うようになる。
- ・ 公立保育園が塩津にある方がいい。車を利用する人もしない人もいるので、いろんな選択肢がある方がいい。

規模が小さいために延長保育ができないのであれば、早急に保育園の合併を進め、園児の数を増やして延長保育を可能にする必要がある。

- ・ 規模が小さいゆえに延長保育ができないのであれば、園児の数を増やして延長保育の実施を可能にするためには、早急に保育園の合併を進めないといけない。

小さい子どもを持つ親にとっては小学校と保育園が一緒の方が便利だ。

- ・ 小さい子供を持つお母さんにとっては小学校と保育園が一緒の方が便利だ。

隣接した施設の駐車場利用も考慮に入れ、施設の位置や車の流れをしっかりと考えて、駐車場確保を検討してほしい。

- ・ 児童館など隣接する施設の駐車場が使えたら、アクセス性は改善できる。
- ・ 駐車場を確保するには施設の位置や車の流れをしっかりと考えてほしい。

いずれの案でも、住民が安全性を理解、納得できることが大切なので、どういう想定で配置を考え、どの様に安全が確保されているかをしっかりと説明してほしい。場所の確保だけでなく、住民が円滑に避難できるための情報提供や避難訓練も行う必要がある。

- ・ いずれの再配置案にしても、住民が安全性を理解、納得できることが大切だ。どういう想定で、この配置でどのように安全面が確保されているのかなど、必要な情報を住民にしっかりと提供してほしい。この辺りは海は近いが内海なので津波はそれほど大きくならないというようなことも、住民は十分に知らないので不安もある。ただ、伊勢湾台風などでは浸水した経験もあるので、説明されても本当に大丈夫かという不安はぬぐえないだろう。
- ・ 避難場所が確保されても住民が正しく避難できなければ意味がない。ソフト面のことだが、どこに避難すれば良いのかの情報や避難訓練などを行っていく必要がある。

案の中ではD案かD'案が良いと思う。D'案は、小学校に2つの保育園が複合化されて保育園のためのスペースが十分に取れ、公民館が中学校に複合されて駐車場が確保できるのが良い。

- ・ D案かD'案がよい。
- ・ 公民館は駐車場確保の面から中学校にある方がいいのでD'案が良い。
- ・ 小学校に2つの保育園が複合化されるD'案なら、保育園のためのスペースが十分に取れると思うので良い。